

事業実施報告

JHA エリートアカデミー第2期 第1回集合合宿/適性検証合宿（岩手県・岩手町）

報告者：馬場治男

（JHA エリートアカデミー校長/強化育成本部アンダーカテゴリー強化育成副部長）

1 会場

- ・合宿会場：岩手町総合運動公園 岩手町ホッケー場
〒028-4304 岩手県岩手町大字子抱第5地割143
- ・宿泊施設：八幡平ハイツやすらぎ荘
〒028-7302 岩手県八幡平市松尾寄木1-590-4

2 参加者

(1) スタッフ

	氏名	所属等
1	馬場 治男	JHA エリートアカデミー事業責任者/飯能市教育委員会
2	高橋 章	事業副責任者・NFコーチ/JHA
3	三好 浩史	統括コーディネーター/表示灯(株)
4	富田 恭平	統括コーチ/社会福祉法人それいゆの会
5	松村 洋介	NFコーチ/岩手町立川口中学校 y
6	余吾 由太	旅行業務取扱担当/(株)ランブリッジ
7	森 宣裕	トレーナー/一般社団法人 BeeTanz
8	岩館 直也	地元サポートスタッフ/沼宮内高校
9	三浦 広宣	地元サポートスタッフ/シミック cmo (株) 西根工場
10	福士 紘平	地元サポートスタッフ/沼宮内高校
11	笈口 将樹	地元サポートスタッフ/盛岡広域森林組合 西部事業所

(2) アスリート

参加アスリート				
	選出区分	氏名	性	所属/学年
1	J-STAR_5期	北村 滯音	男	滋賀県・長浜西中/3年
2	J-STAR_5期	生井 ころ	女	茨城県・手代木中/2年
3	J-STAR_5期	下田 侑樹	男	岩手県・滝沢南中/3年
4	エリートアカデミー1期	小池 咲代	女	岐阜県・中央中/3年
5	開発実証	榎原 東子	女	愛知県・武豊中/2年
6	開発実証	古田 紗友花	女	広島県・鈴が峰小/6年
7	U15(東北)	晝八 一綺	男	宮城県・築館中/3年
8	U15(関東)	土橋 拓矢	男	山梨県・白根御勅使中/3年
9	U15(東海)	鬼束 康介	男	静岡県・沼津市立高等学校中等部/3年

10	U15 (中国)	宮本 康樹	男	島根県・横田中／3年
11	U15 (関東)	瓜田 茉緒	女	埼玉県・美杉台中／3年
12	U15 (北信越)	藤井 音々	女	福井県・朝日中／3年
13	U15 (東海)	橋本 奈々	女	岐阜県・中央中／3年
14	U15 (近畿)	西田 葉名	女	京都府・瑞穂中／3年
15	U15 (中国)	宮脇 亜実	女	鳥取県・八頭中／3年

【大雨による交通トラブルについて】

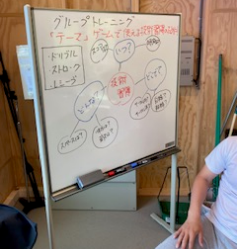

2023.6.3からの西日本～東海地方を中心に発生した(線状降水帯による)大雨の影響により、6.3～6.4は東海道新幹線が東京～名古屋間で運転見合わせとなった。

この東海道新幹線の運休により、東海地方以西から参加するアスリートに大きな影響が出て、保護者の努力により参加できたアスリートが大部分であったが、参加を断念するアスリートも出た。

3 活動概要

(1) アスリートプログラム (適性検証)

1日目 (令和5年6月3日・土)	
時間	活動内容
13:00	集合 (受付、健康観察、承諾書の受領)
13:05	開校式 (進行：三好、あいさつ：馬場)
13:10-	W-UP (主担当：富田)
13:30-	<p>①基本スキルの学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル ・ストローク ・レシーブ <p>※3～4人のグループを編成し、課題に対する練習法を提案しグループ内で実践する。その際、どのようなシチュエーションでどんな効果を目指して、どのような技術を習得するかということを意識させた学び合いを行わせる。</p> <p>※指導者は、答えを教えるのではなく、学び合いを活発にするよう支援に努める。</p>

主体的な学びを促す4つのアプローチ

tell	sell	ask	delegate
指示 <small>教える、伝える</small>	提案 <small>決断を実行するかどうかの選択はアスリート自身</small>	質問 <small>質問することにより、プレーヤー自身の気づきを促す</small>	委譲 <small>プレーヤー自身で観戦、分析、判断、実行</small>

↑ コーチ ↓ アスリート

ポイント！自ら学ぶことを習慣化！主体的な学びにより選手に自分でうまくなるためのイメージを描かせる。

15:00-

②テストゲーム

岩手県チームとのテストマッチ 10分×4ゲーム

※ビデオ撮影（今後のオンライン学習の素材として）



☆今年度より、AI カメラを導入 ([STADIUM TUBE](#)) では、ピッチ全体を俯瞰的に撮影し、クラウドにアップロードした動画にクラウド上でAI 処理をおこなうことで、ボールを追った映像となる。スタッフの数も限られる中、撮影を自動化することで指導者が指導にかける時間を増やすこと、また動画はクラウド上にあるので遠く離れた保護者も自分の子供の活躍を確認できる画期的な取り組みである。



※岩手県の中学生チームは、昨年の都道府県対抗 11 人制ホッケー選手権大会で男子は優勝、女子は準優勝の強豪チームであるため、テストマッチの相手として成果を確認するに十分な相手であった。

16:00

ダウン

16:30

バスにてホテルへ

・八幡平ハイツ到着後、

《入浴》

～休憩～

《夕食》



22:00	アスリート就寝
2日目 (令和5年6月4日・日)	
時間	活動内容
6:00	起床 ・練習およびチェックアウトの準備
8:30	バスにてグラウンドへ ・チェックアウト ・練習の準備を整えバスに乗車
9:00	会場到着 2日目受付 ・2日目から参加するアスリート受付・健康観察・同意書受領 ・保護者への対応 (交通手段や大雨による状況の確認など) エリートアカデミー事業について説明
9:00-	W-UP *森トレーナーによるメニュー ①スポーツリズムトレーニング スポーツにおけるリズム感の養成、脳の運動野を刺激し集中力・判断力などを高める ②ストレッチング 股関節、脊柱、肩甲帯を中心に身体をほぐす ③スプリントメニュー 切り返し動作も含めた、加速トレーニング
9:30-	①ドリブルスキル3種 4グループに分かれて対人的トレーニング 1)「ドライブ」 2)「キープ」 3)「エリミネイト」 3種のドリブルの特性を理解し、使い分ける。



	<p>☆臨時対応</p> <p>雨と雷により緊急退避した際、避難したコンテナ内で森トレーナーによるトレーニングを行う。</p> <p>バランス能力と筋出力を同時に実施する身体操作トレーニングを実施。</p> <p>雨と雷により緊急待避した際、避難したコンテナ内で森トレーナーによるトレーニングを行う。</p>
	<p>②テストゲーム</p> <p>岩手県チームとのテストマッチ 10分×4ゲーム</p> <p>※ビデオ撮影（今後のオンライン学習の素材として活用）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
12:00	ダウン
12:15	<p>閉校式（進行：富田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめのあいさつ（馬場） ・諸連絡（三好）
12:30	解散
12:40	<p>送迎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボタクシーにて公共交通機関利用者をいわて沼宮内駅へ


***エリートアカデミー事業について説明（事業の概要について理解を深める）**

0114/0023 2023.05.13

根本性を有する競技者の発掘及び育成活動 (タレント発掘・育成育成事業)

公益社団法人日本ホッケー協会
強化育成本部 アンダーカテゴリー強化育成事業
**JHAエリートアカデミー第2期生
タレント説明資料**

公益社団法人日本ホッケー協会



国内の現状分析

・ホッケー競技はオリンピック種目、目付団体競技であるものの、日本での普及・認知度とも進んでおらず、スポーツから高校までは、**限られた市区町村でのみ取り組まれている**。そのため各地域における競技継続の環境が不十分である場合が多い。

・大学生においては、関東や関西の大学に多くのチームが存在するが、中学校・高校時代から全国大会等で活躍したアスリートが進学するトップレベルのチームと、大学からカレッジスポーツ感覚でホッケーを始める選手で構成されるチームにパフォーマンス（競技力）が二極化している現状である。

プロジェクトの趣旨

日本ホッケー協会では、強化戦略プランに基づき、従来の部活動を入り口とした**パスウェイの充実化を図り、タレント発掘やクラブチームとの連携など新たなパスウェイによる国産競技力向上**を模索し取り組みはじめたところである。

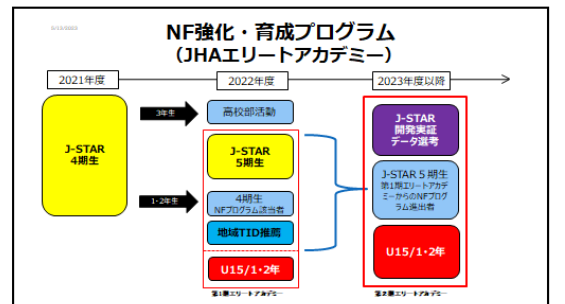
JHAエリートアカデミーは、ホッケー競技に適性のあるアスリートの**発掘が最大の目標**であるが、アンダーカテゴリー強化育成部のメンバーを中心として、ハイパフォーマンス強化育成部、スポーツ少年団および中学校部会、その他、多くの関係者が丸となって取り組むことにより、**新たな可能性を見いだす事業**となることを期待している。具体的には、**異なるカテゴリーの指導者が連携**することにより指導メソッドの共有やトップチームの知恵を共有することによる一貫指導の構築が強く、この積み重ねが日本ホッケーの指導力向上に結びつくものと信じている。

プロジェクトの目的、ゴール

事業を通して、参加したアスリートが自覚と誇りを持ってホッケーに取り組み、各地域（チーム）のリーダーとして活躍されること。さらに、**将来の日本ホッケーを代表して世界で活躍するトップアスリートの育成を目的とする。**

JHAエリートアカデミー体制

役職	役職	氏名
本事業統括	事業実施責任者	高畑 尚男
	実施副責任者	寺本 祐治 高橋 豊 川上 啓
	統括コーディネーター	三好 浩史
	統括副責任者 兼 統括コーチ	余部 由太 富田 恭平
企画・運営 メニュー作成・配信 選手・チーム指導等	NFコーチ	三津 菜希 松村 洋介 高橋 啓子
	トレーナー	森 賢祐
事務・庶務	日本ホッケー協会 事務局員	坂本 誠樹
	日本ホッケー協会 事務局員	安岡 裕美子
総務	日本ホッケー協会 事務局員	横田 千春



JHAエリートアカデミー第2期生 年間スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
集合同宿		選手 育成				正選 育成	正選 育成				
居住地トレーニング		居住地トレーニング									
オンライントレーニング		オンライントレーニング									
選考		選考実施			選考実施						

- 集合同宿は年4回を予定
- 居住地トレーニングについては、すでに部活クラブにてホッケーをされている方はそちらでのトレーニングを継続し、所属されていない方は、お近くのチームを紹介いたします。
- オンライントレーニングは、月1~2回オンラインにてトレーニングを予定しています。
- 選考については、現在の状況をスタッフがタレントと個別に面談を行います。

集合同宿のパターン

1回選考J1トレーニング
2回選考J2トレーニング
3回選考J3トレーニング
4回選考J4トレーニング
5回選考J5トレーニング
6回選考J6トレーニング

**JHAエリートアカデミー
第2期生
~選考検証①~**

- ・6月以降、4回の合宿を計画
- ・6/3-4第1回合宿(岩手県・岩手町)
- ・9/3-24第2回合宿(広島県・広島市)
- ・10/21-22第3回合宿(茨城県・境町)
- ・12/16-17第4回合宿(東京都・品川区)



居住地トレーニング
 (部活動・クラブチーム・TID・指導者連携)

JHAエリートアカデミー 第2期生
 ~適性検証2~

- 居住地し可能なチームor指導者とのマッチングをJHAが行います。
- U15からの選抜アスリートは、自チームでのトレーニングを継続します。

オンライントレーニング
 (コミュニケーションツールBANDの活用)

JHAエリートアカデミー 第2期生
 ~適性検証3~

- 学び合いの場として成立
- NFコーチのタイムリーな返信→信頼関係
- 全ての過程で人工芝の練習環境

オンライントレーニングの様子

【オンライントレーニング (スキル編)】

【オンライントレーニング (ゲーム分析編)】

***エリートアカデミー事業に対する質問・要望・意見について**

- ・大方、協力的な意見をいただくことができた。
- ・今回の大雨対応についても、保護者の協力があったからこそその事業実現だと痛感した。JSCの補助規定でどうにもならないことであるが・・・、保護者の協力が必要な年代のアスリートを対象にした事業であることを考えると、保護者の経費負担(旅費・宿泊費)ができないことは心苦しい。

4 成果・課題

(1) 活動の成果

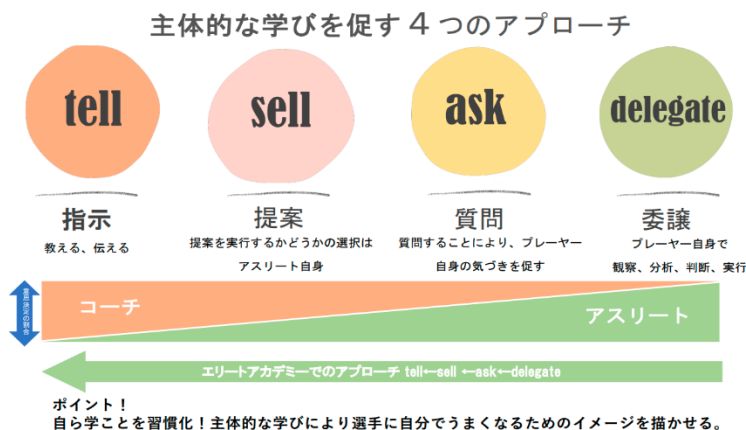
JHA エリートアカデミー第2期はオリエンテーションを5月13日(土)にオンラインにより実施しスタートを切った。今回の合宿でアスリートと対面で会うことができ、共に汗をかくことができたことで、アスリート同士はもちろんのこと、アスリートとスタッフ、更には保護者との出会いが現実的なものとなり1つのチームとしてのスタートを切ることができた。

参加したアスリートのモチベーションは高く、合宿1日目が滋賀県で行われた伊吹カップと重なってしまったが、4名のアスリートが2日目に参加するために岩手まで夜通し車を走らせ参加してくれた。今回は運が悪く、線状降水帯が発生し公共交通機関が乱れる大雨の中での移動が強いられ、引率してくれた保護者の方には頭が下がる思いであった。それでも、保護者の方からは「子どもが行きたいというので・・・」「子どもの夢を実現するためなら・・・」という言葉をいただき、この事業を進めるこ

との責任を強く感じ、預かったアスリートの将来を真剣に考えて事業を進めることの重要性をスタッフ一同で決意を固めた。

この事業でのトレーニングスタイルは、アスリートの主体的な学び合いを重視した手法を大切にしている。指導者からは、身につけたいスキルや戦術を学ぶためのきっかけ（ヒント）が投げかけられアスリート自身が考え・判断し・実践できるように成長していくことを求めている。（「主体的な学びを促す4つのアプローチ」参照）

ここに集まったアスリート（特に U15 から選考されたアスリート）には、各地域に戻ったときに、チームや県、ブロックを引っ張っていく存在として活躍してくれることを期待している。そのために、主体的に学び・実践力のあるアスリートとして成長してくれることが何よりも大切である。



エリートアカデミー第2期での集合合宿は4回である。次回の合宿は9月に予定されているが、アスリートには合宿の合間に行う居住地トレーニング（所属チーム等でのトレーニング+オンライントレーニング）を充実させることが成果を出す上で重要である。

特に、オンラインによるトレーニングに、主体的に意欲をもって、継続的な取り組みができるかがそのアスリートの将来を左右するであろう。

今回、開発実証から選考されたホッケー未経験のアスリート2名にも、全国レベルで活躍する岩手県チームとのテストマッチに参加させた。ホッケースキルは当然ながら未熟であるが、今持っているスキルと体力をフル稼働しゲームに臨む姿勢には将来性が期待できる。

(2) 課題・改善点

JHA エリートアカデミー第2期では、①U15 からの推薦、②J-STAR からの適性検証をクリアしたアスリート、③開発実証からのホッケー未経験のポテンシャルアスリートという3つのカテゴリーからのアスリートが混在している。

特に③開発実証から選考された2名のアスリートは、次回の合宿までに居住地トレーニング（地域クラブ等とのマッチング+オンライントレーニング）により、いかにケアしていくかに我々の手腕が試されていると言えよう。

アスリートの成長を見極めながら適切な課題提供と丁寧な対応が求められる。

また、現在、強化育成本部テクノロジー&デブロップメント部が中心に取り組んでいる、世界で活躍するホッケー選手を発掘・育成するためのアスリート育成パスウェイ「ホッケー版 FTEM」の完成を、JHA エリートアカデミーの活動とリンクさせ同時進行で進めていくことが求められる。

こちらについても、JSC の指導をいただきながら、他のカテゴリー（U12/U15/U18/U21/サムライ・さくら）スタッフと連携し今年度末の完成を目指していかなければならない。

更に、スタッフの充実についても事業を恒常的に進める上では大切な問題である。女性スタッフが薄くなっている現状の早期解決は重要課題である。

併せて、管理栄養士の増員もアスリートの栄養管理や保護者プログラムの充実、補助対象の幅を広げるという面からも解決したい課題である。

以上